

# 宮城県感染症発生動向調査情報(第1週)

宮城県【平成26年01月10日】発行

宮城県保健環境センター

TEL (022)257-7228

— 2013.12.30 ~ 1.5 ・ 第1週 —

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所								宮 城 県 (含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第50週	第51週	第52週	第1週
水痘	6 1.20	6 0.60	15 3.00			17 3.40	2 1.00	6 0.23	52 0.90	52	◎ →	◎ →	◎ →	◎
流行性耳下腺炎		2 0.20			2 0.67		7 3.50	11 0.19	11	11	○ →	○ →	レ →	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	86 17.20	32 3.20	34 6.80	6 3.00	13 4.33	48 9.60	9 4.50	70 2.69	298 5.14	298	◎ →	◎ →	◎ →	◎
手足口病											レ →	→	→	
伝染性紅斑		3 0.30	1 0.20	1 0.50				1 0.04	6 0.10	6	○ →	○ →	○ →	レ
突発性発しん	4 0.80		1 0.20	1 0.50	1 0.33			2 0.08	9 0.16	9	○ →	○ →	レ →	
ヘルパンギーナ											→	→	→	
インフルエンザ	8 1.00		8 1.00	3 1.00	3 0.60	4 0.50	30 7.50	8 0.19	64 0.69	64	レ →	→	○ →	○
咽頭結膜熱		1 0.10		1 0.50				2 0.08	4 0.07	4	→	→	→	
流行性角結膜炎											→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5 1.00	3 0.30	1 0.20	2 1.00	1 0.33	4 0.80		6 0.23	22 0.38	22	◎ →	◎ →	◎ →	レ
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎							1 1.00	1 0.20	2 0.17	2	→	→	→	
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症	3 0.60	1 0.10			2 0.67	1 0.20		8 0.31	15 0.26	15	◎ →	◎ →	○ →	レ
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		2					3	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向					
	川崎病	1							【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 <a href="http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/">http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/</a>					
	不明発疹症							1						
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※													

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

## 定点把握の対象となる5類感染症(全国 第50週 再掲) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

**インフルエンザ**: 定点当たり報告数は第43週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は山口県(4.24)、鹿児島県(3.01)、高知県(2.44)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は42例と前週と比較して増加した。都道府県別では23都道府県から報告があり、年齢別では0歳(2例)、1~9歳(11例)、10代(1例)、20代(1例)、30代(1例)、40代(3例)、50代(2例)、60代(2例)、70代(9例)、80歳以上(10例)であった。**RSウイルス感染症**: 報告数は4,385例と横ばいであった。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約71%を占めている。**咽頭結膜熱**: 報告数は第46週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い、都道府県別の上位3位は宮城県(2.11)、鹿児島県(2.07)、島根県(2.04)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 報告数は第46週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は山形県(6.27)、新潟県(4.56)、北海道(4.47)である。**感染性胃腸炎**: 報告数は第46週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は埼玉県(30.77)、群馬県(28.38)、東京都(26.48)である。**水痘**: 報告数は第46週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は福井県(3.86)、新潟県(3.74)、佐賀県(3.52)である。**手足口病**: 報告数は第45週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は宮城県(3.44)、鹿児島県(2.78)、佐賀県(2.22)である。**ヘルパンギーナ**: 報告数は第31週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は富山県(0.17)、滋賀県(0.13)、香川県(0.13)、沖縄県(0.12)である。**マイコプラズマ肺炎**: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は富山県(1.60)、宮城県(1.42)、岩手県(1.16)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 増加した。都道府県別では14都道府県から19例報告があり、年齢別では0歳(5例)、1~4歳(9例)、5~9歳(4例)、10代(1例)であった。

\* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所))の集計結果です。( )内の数字は定点当たり報告数となります。

## 今週の全数報告疾病

1類感染症: 報告なし  
2類感染症: 結核  
3類感染症: 報告なし  
4類感染症: 報告なし  
5類感染症: 後天性免疫不全症候群

仙台管内 女性1名(2013年第52週)  
仙台管内 男性1名(2013年第50週)

※男児、女兒は6歳未満

## 今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 3例

## 今週の感染症のコメント — 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

[流行性耳下腺炎]  
気仙沼管内で警報継続中。

## 【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

感染性胃腸炎集団発生事例より

登米管内	2013年第52週採取分	ノロウイルスG I	2件
大崎管内	2013年第1週採取分	ノロウイルスG II	3件

感染性胃腸炎患者より

塩釜管内	2013年第49週採取分	ノロウイルスG II	2件
		アデノウイルス41型	2件
	2013年第50週採取分	ノロウイルスG II	1件
		サボウイルス	1件
		エコーウイルス	1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第51週採取分 (12.16~12.22)	第52週採取分 (12.23~12.29)	第1週採取分 (12.30~1.5)
インフルエンザウイルス(解析中)	2件	0件	0件
RSウイルス	1件	0件	0件

## [インフルエンザ]

今シーズンのインフルエンザ患者数は、2013年第48週以降横ばいであったが、今週県全体で倍増し、増加傾向となった。特に気仙沼管内で多く、流行が開始した可能性が高い。例年、学校等の冬季休業終了後、本格的な流行となる傾向があるので注意が必要である。